

27 February 2019

修士論文発表会

大地震後の継続使用を可能とする 木造住宅の耐震性能

角田 功太郎

木質構造機能学分野

OUTLINE

1. はじめに
2. 研究手法
 - 2-1. 調査
 - 2-2. 解析
 - 2-3. 実験
3. まとめ

1. はじめに

研究の背景と目的

背景と問題点

大地震後の木造住宅の継続使用

4



2016年熊本地震

- 倒壊した建物は8,682棟、直接死は50人に達した。
- 倒壊した建物のほとんどは古い建築基準に則ったものであったが、現行の基準の建物も大きな被害を受けた。
- さらに、被害を受けた住宅のその後の継続使用は困難であった。基準法では大地震に対して倒壊しないことを目指しており、継続使用を考える上では不十分。

大地震後の継続使用を可能とする耐震性能を明らかにする。

また、その性能は実現可能なのか？

Vision

1. 被災地で継続使用されている住宅の被害レベルなどを調査した。
2. その被害レベルに抑える耐震性能を解析的手法で明らかにした。
3. 振動台実験を実施し、解析の妥当性を確認した。